

予報本文

チ ヤ

1 カンザワハダニ

予報内容 発生量：山城：平年比やや少ない（前年比やや少ない）
丹波：平年並（前年比やや多い）
丹後：例年並
防除時期：3月上旬

予報の根拠

- (1) 2月第5半旬現在、寄生葉率は山城で平年比低く（－）、丹波、丹後で寄生を認めなかった（丹波：平年並）（丹後：例年並）。
- (2) 産卵は認められず、産卵葉率は山城で平年比低く（－）、丹波で平年並、丹後で例年並であった。
- (3) 発生ほ場率は山城で平年比低く（－）、丹波、丹後で発生を認めなかった（丹波：平年並）（丹後：例年並）。
- (4) 向こう1か月の気温は平年並または高く（＋）、降水量は平年並と予想されている。

カンザワハダニ調査結果（100葉調査）

調査日：平成26年2月21～24日

地域	寄生葉率(%)			産卵葉率(%)			発生ほ場率(%)		
	本年	平年値	前年値	本年	平年値	前年値	本年	平年値	前年値
山城	0.05	1.32	0.05	0.00	0.40	0.00	4.76	32.28	4.55
丹波	0.00	1.37	0.00	0.00	0.57	0.00	0.00	21.67	0.00
丹後	0.00	0.00	—	0.00	0.00	—	0.00	0.00	—

発生生態及び防除上注意すべき事項

- (1) 越冬雌成虫は休眠から醒めると体色が朱色から濃赤色に変わり、活動を始める。
- (2) 卵は日数が経つにつれ、透明から黄色となり、ふ化が近づくと赤みを帯びる。
- (3) 越冬虫数が多いと、春期の発生も多くなる傾向がある。気温が上昇し、暖かい晴れた日が続くと、急速に産卵、増殖する。
- (4) 幼若虫の発生が認められるほ場では防除適期に留意する。
- (5) 防除は一番茶の萌芽前に行う。
- (6) 毎年多発する園や秋期に防除しなかった園では注意する。

参 考

I 近畿地方 1 か月予報

(2月22日から3月21日までの天候見通し)

平成26年2月21日
大阪管区气象台 発表

<予想される向こう1か月の天候>

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

近畿日本海側では、平年に比べ曇りや雨または雪の日が少ないでしょう。近畿太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。日照時間は、近畿日本海側で平年並または多い確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率50%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気 温	20	40	40
降 水 量	30	40	30
日 照 時 間 (日本海側)	20	40	40
(太平洋側)	40	30	30

病虫害防除所では上記の天候の1か月予報の表現を「向こう1か月の気温は平年並または高く、降水量は平年並、日照時間は日本海側で平年並または多く、太平洋側で平年並」としました。

II 用語の定義

1 半旬のとり方

第1半旬 第2半旬 第3半旬 第4半旬 第5半旬 第6半旬

各月の 1～5日 6～10日 11～15日 16～20日 21～25日 26～最終日

2 発生量 --- 病虫害の発生程度と広がり両面を加味したものをいう。

3 平年値 --- 原則として過去10か年の平均とする。
データが10年に満たない場合は例年値とする。

4 平年値との比較

1) 時期

平年並	平年値を中心として前後2日以内
やや早い	平年値より3～5日早い
やや遅い	平年値より3～5日遅い
早い	平年値より6日以上早い
遅い	平年値より6日以上遅い

2) 量(発生量、発生面積等)

平年並	平年値並の発生で10年間に4回は発生する程度の普通の量
やや多い	「平年並」より発生が多く、10年間に2回程度の頻度で発生する量
やや少ない	「平年並」より発生が少なく、10年間に2回程度の頻度で発生する量
多い	「やや多い」より多く、10年間に1回程度しか発生しない量
少ない	「やや少ない」より少なく、10年間に1回程度しか発生しない量

Ⅲ 予報本文の見方

(見方の例)

3 チャノコカクモンハマキ

予報内容 発生量：山城 平年比少ない (前年比少ない)
丹波 平年比やや多い (前年比やや多い)
発生時期：第3世代幼虫ふ化期8月第3～4半旬 (平年並)

- ・「予報内容」は、今後の病害虫発生状況や発生時期の予測を平年比として示しています。
- ・平年比の考え方は、「Ⅱ 用語の定義」の「4 平年値との比較」を参照してください。
- ・()内の前年比は予想月の前年の発生量(時期)との比較を示しています。
- ・必要に応じて地域別に示しています。

予報の根拠

- (1) 7月中旬現在、第2世代の発生量は山城で平年比少なく(－)、丹波でやや多い(＋)。
- (2) 第1世代成虫のフェロモントラップへの誘殺盛期は平年並であった。

- ・「予報の根拠」は、巡回調査の結果、天候、フェロモントラップへの誘殺状況、指導機関からの情報等、「予報内容」で示した発生量や発生時期の根拠となった事項を示しています。
- ・文中の(－)、(＋)は、発生量の予想に影響を及ぼすと考えられるもので、(－)の場合は発生量が少なくなる要因、(＋)は発生量は多くなる要因を示します。

発生生態及び防除上注意すべき事項

- (1) 通常、4回世代を繰り返し、第2世代成虫が7月下旬～8月上旬に発生し産卵する。
- (2) ふ化した幼虫は成長すると、葉を綴って食害するようになり、薬剤がかかりにくくなるので、ふ化直後の若齢幼虫期の防除が効果的である。

- ・「発生生態及び防除上注意すべき事項」は、当該病害虫の生態、薬剤防除や耕種的防除上の留意事項、要防除水準等を示しています。

※病虫害防除については、病虫害防除所・最寄りの農業改良普及センター又は農協にご相談ください。

詳しい農薬情報は、農林水産省ホームページの「農薬コーナー」の「農薬情報」をご覧ください。

ホームページアドレス http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/index.html

農業改良普及センター 電話番号一覧		
・京都乙訓	農業改良普及センター	075-315-2906
・山城北	農業改良普及センター	0774-62-8686
・山城南	農業改良普及センター	0774-72-0237
・南丹	農業改良普及センター	0771-62-0665
・中丹東	農業改良普及センター	0773-42-2255
・中丹西	農業改良普及センター	0773-22-4901
・丹後	農業改良普及センター	0772-62-4308

農作物病虫害情報サービス

- ・ホームページアドレス
<http://www.pref.kyoto.jp/byogai/>

京都府病虫害防除所
〒621-0806 京都府亀岡市余部町和久成9
TEL 0771-23-9512
FAX 0771-23-6539

－農薬の使用にあたっては使用基準を遵守すること－